

デンソー山岳部 2009年夏山合宿報告書【劔岳隊】



【目的】全豊田山岳連盟40周年記念、新人・中堅の育成

【山域】立山・（劔岳）

【隊員】芦田直之CL・吉川浩行SL・渡辺勝利・津田廣一・金子清・町田修・天野広*・藤田英昭・飯谷洋子*・鐸木博美・伊藤千佳子・川中亜希美*・小久保聡美*

(*印は合宿初参加)

【行動予定】

8/8 入山ー 雷鳥沢

8/9 雷鳥沢ー 雄山ー 別山ー 劔沢（5：20）

8/10 劔沢ー 劔岳ー 劔沢（5：25）

8/11 劔沢ー 室堂（3：20）

8/12 予備日

【ログ】

1日目<8/8（土）曇り>

4：15 N1駐車場発

9：00～9：25 立山駅駐車場



11:00~11:15 室堂

11:50 雷鳥沢着

13:45~15:20 岳連開会式

本社N1駐車場に時間通り集まり出発。高速道路1,000円の影響無くケーブルカーの待ち時間も15分程度ですみ、順調に室堂センターに到着(11時)した。雲はまばらにあったが晴天。地獄谷を通り雷鳥沢に到着後、岳連各社と合流。予定を早めて13:45より開会式。各社より山行予定とメンバー紹介、途中『10年前とメンバーがあまり変わっていない』というコメントもあったが各社より新入部員のあいさつがあり(写真)新しい時代の風を感じながら温かい霧



囲気の中開会式が終了。その後は各社混合で懇親会。夕方になり雲が空を覆い始めたが雨にはならず、無事1日目を終了した。(鐸木 記)

2日目<8/9(日)曇り時々雨>

4:30 起床 6:25 雷鳥沢キャンプ場発 6:30 渡渉

7:05~7:15 小休止 8:10~8:25 小休止 8:35 一の越山荘前着

9:20~9:30 小休止 9:55~10:25 雄山頂上(3,003m 大休止)

11:00~11:15 大汝山頂上(3,015m 小休止)

12:00~12:15 真砂岳の手前(2,860m 小休止)

13:10~13:25 別山頂上(2,874m 小休止)

13:55~14:05 劔御前小屋前(小休止) 14:40 劔沢キャンプ場着

16:30 夕食及び反省会 20:00 就寝

夜中の風雨と不慣れなテント泊でほとんど眠れない中、朝を迎えた。男性陣のV8テント内で朝食の準備が始まる。タイミングを逃した私は外でウロウロ。すると突然、悲鳴のような声が聞こえたかと思うと、テントがオレンジ色に染まり、火のついたガスコンロが外に飛び出てきた。一瞬血の気が引いた感覚に襲われたが、次の瞬間金子さんが果敢にもコンロに手を伸ばし、つまみをひねって消火! どうやらガス漏れによる発火らしく、倒れたコッヘルから2リットルの水がテント内に飛び散っていた。幸いケガ人はなかったが、状況次第では大惨事になる恐れがあった危険なハプニングであった。その話題をおかずに、全員で朝食の雑炊をおいしく頂き、6:25雷鳥沢キャンプ場を後にした。5分後、早速私達の前には一本の川が立ちはだかった。最初は岩の上を歩けばなんとかぬれずに済んだが、いよいよ本格的に渡渉せねばならない霧囲気に。まずは渡辺さんと吉川さんが渡り、その後川中さんが忍者並みの速さで水の上を行ったかと思うと向こう岸でドテッとコケた。大半の人は靴を脱ぎ、首に掛けて素足で渡渉。全員がそろってから再び歩みを進める。細い枝のトンネルを抜けると、視界が広くなり小さい花がたくさん咲いていた。あまりに暑いので皆レインウェアを脱ぐ。上を目指すにつれて、後方に見えるテント場が小さくなっていき、しんどいながらも着

実に前へ進んでいるのを実感できた。少し広くなったところで一本（写真）。振り返ると大日岳・奥大日岳がどっしり構え、右手には室堂からのルートにカラフルな登山客が連なっているのが見える。急登だがきちんと舗装された道を通り、一の越山荘前に到着。各方面からやって来た登山客で込み合っており、遠方には富士山の先端を眺めることができた。見て見ぬフリをしていたが、左手にはゴツゴツした岩場が天まで突き抜け、どうやら私達はそこを登るらしかった。こんな所登ったことないよと思いながらも、小さな子供まで泣きながら登っているのを見ると、行くしかないと思われた。途中、若い女の子の集団が上からおりてきて、渡辺先輩が話しかけたところ栃木の女子高の山岳部だと言っていた。彼女たちは目がキラキラしていて、なんだか爽やかな気分になった。30分ほど岩場を登り、一瞬頂上かと思わせる場所で再びレインウェアを着用。数分経ってから、藤田英さんがいないことにやっと気付く。「おーい！藤田！！」まさかの遭難か？と思いきや、全身青色の藤田さんがご登場。最後尾でひとりレインウェアを着ていたらしい。さらに30分ほどで雄山頂上到着。かなり込み合っている。神社で友人用に縁結びの御守りを購入。奥には有料で入場できるほこらがあり（写真）おはらいもできるようだった。約30分の大休止を終え、狭い岩場をたどり次なる山へ。30分ほどで大汝山頂上直下へ到着。芦田さんを残し、2～3分岩場をよじ登って頂上へ。かなり狭く、むりやり皆で岩にへばりついて写真撮影。小休止した後、雪渓が姿を現し、吉川さんが雪に浸したタオルを頭に巻いて「気持ちいい！」とうれしそう。そこからはしばらく下りで少し気が楽になった。富士ノ折立付近で、前方を歩く藤田英さんの頭上をスズメ大の小鳥が横切った。「あれは雷鳥か？」だの何だの言いながら鳥を見ていると、後方から「藤田大丈夫か！調子悪いのか！」と渡辺さんの声。今回山岳部イチのいじられキャラW



I S H杉本さんが別コースということはいささか心配だったが、代わりにいじられキャラを発見し胸をなで下ろした筆者であった。真砂岳手前（2860m）で一本（冒頭の写真）。天野さんが発した「しんどい」の一言に安心する。しかしその後別山という心臓破りの登りでフラフラになる（私だけ？）。やっとの思いで頂上に辿り着き、皆で握手。パンパンになった脚を藤田英さんがマッサージしてくれ、その傍らで渡辺先輩が「うちのダンナはグアテマラ生まれ〜♪」とCMソングを歌ってくれた。その様子を離れた所から半笑いで見つめる芦田さんの視線を見逃さなかった筆者であった。しばし休憩後、「ここからは下りだから」の言葉に励まされ頑張る気持ちになる。同い年だが山では大先輩の鐸木さんが前を歩いて先導してくれる。なぜ彼女はあんなにも軽やかに歩けるの



か？小さな岩がゴロゴロした道を下り、劔御前小屋前に到着、トイレ休憩。下には雪渓が見える。さらに30分後、劔沢キャンプ場で薬師岳隊の皆さんに出迎えられる。やっと人間界に戻ってきた気がした。夕食はクリームシチュー（写真）と海藻サラダ。食糧係の伊藤千さんが「誰か野菜洗ってきてください！」と男性陣に半ギレし、それにビビったのか金子さんが積極的にじゃがいもの皮をむいていた（上手だったので今後のじゃがいも係に任命します）。夕食後はV8テントに全員ギューギューに集まって歓談。皆一言ずつ感想を言い合い、それを提案した金子さんが「なかなかいい企画だった！」と自己満足していた。20時ごろ就寝…今日こそ寝れると思ったのに、雨漏りで頭ビチョビチョ且つ風がうるさく、一睡もできなかった。その横で女版吉田君の異名を持つ川中さんが死んだように眠っていてうらやましかったです。（小久保聡 記）



3日目<8/10（月）曇り時々雨>

3：00 起床・4：00 発の予定が天候不良のため待機 5：30 朝食（ラーメン）
7：40 劔沢キャンプ場発 8：15～20 劔御前小屋（一本）
9：40～50 雷鳥沢キャンプ場横階段（一本） 10：30 室堂着
10：40 室堂発（落石によるケーブルカー停止につき立山駅までバスで直行）
11：45 立山駅着 12：10 立山駅発（町田号・金子号・吉川号）
12：20～13：45 ウェルサンピア立山（入浴及び会計）
15：00 JR富山駅にて藤田さん帰省のため下車
15：15～16：00 きときと寿司・太郎丸店（津田さん御用達？）
16：10～16：30 海鮮市場（タコ・酒など購入）
18：00～18：30 ひるがのSA（金子さんより、藤田さんのその後について説明あり）
20：30 部室着（藤田さん、刈谷に到着済みとの報告あり） 21：00 N1着

当初3：00起床、4：00出発予定が、天候不良のため待機となる（後で分かったが台風接近の影響のため）。前日からの雨でテント内の水漏れがひどく、私はシュラフカバーでガードできたが、何人かはほとんど一睡も出来なかったとのこと。5：30みんなで朝食のラーメンを取り、検討の結果、天候回復の見込みもなく撤退を決定。急いで荷物をまとめ7：40劔沢キャンプ場を出発。雨が降る中歩き8：15劔御前小屋にて一本。重い荷物そして雨で足取りも重く、前日とは違い景色を楽しむ余裕もなくひたすら歩く。前日のテン場である雷鳥沢キャンプ場近くの階段で一本。最後のひと踏ん張りと言いきりに歩いた地獄谷とは別の、血の池からみくりが池を回るコースを行くが、一般の散策で楽しむ舗装された階段もこれがかなり急で息が上がってしまう。意外や登山道を歩くよりもここが一番きつかった？やっとの思いで10：30室堂着。すぐ10：40室堂発、落石によるケーブルカー停止のため立山駅までバスで直行。乗換えがなくて逆に楽かも。11：45立山駅着。それぞれの車に分乗して12：20から1時間強ウェルサンピア立山にて入浴。やっと人心地着く。その後15：00藤田さん帰省のためJR富山駅にて下車（後に実に藤田さんらしい楽しいエピソードが待っているとは…）、15：15富山駅近くのきときと寿司にて遅めの昼食（津田さ

ん御用達?)大変おいしいお寿司を頂きました。16:10きとときと寿司大将おすすめの海鮮市場に立寄りお土産購入後刈谷への帰途へ。18:00高速ひるがのSAにて、金子さんより藤田さんが輪島に行くはずが結局刈谷に向かっていると報告あり。実家に居るはずのお父様が黙って刈谷に行ってしまう、追いかけるはめに。父子でちゃんと連絡は取り合うべし。その後町田号車内にて携帯紛失騒ぎ発生。町田さんの普通のお顔であせているのがなぜか新鮮に感じました(余談)。20:30部室着、みんなで備品片づけと締め、藤田さん無事に刈谷到着の報告あり。21:00N1駐車場にて解散。(飯谷 記)

【所見】

<総括> 全員無事計画通りの歩行ができたことから、剣岳隊の目的である新人の育成は達成できたといえる。岳連の開会式でも他社との交流ができた。これを機会に今後もさまざまな部員が合宿に参加することを望む。(芦田)

<ルート> 難易度としては適切だった。別山から剣沢に行く道が通行止めになっており、剣御前小屋を経由しなければならなかった点だけ計算外。(芦田)

<行動> 10日の朝に撤退の判断を下した。次の点を考えると、妥当な判断だったといえる。(1) 台風の影響による風雨のもと、ぬれた岩をよじ登ることの危険さ。(2) 女性用テントのフライが外れて浸水し、さらにそのせいで一睡も出来なかった人がいたこと。(芦田)

<食糧> 全体として上々の出来だったと思う。今回は①参加人数が多い②テン場に2泊予定など、割合重量のある食材を運べる環境だったので料理らしいメニューにした。1日目のチラシ寿司はほどよい酸味が食べやすく、焼き海苔やキウイがよかったと思う。2日目の野菜たっぷりのシチューもおいしかったが、若干主食が足りなかったかもしれない。じゃがいもを増やすか別途主食らしいものを用意の方がよかった。幸い今回は吉川さんがフランスパンを提供してくださりおいしくいただいた。チラシ寿司と朝食の雑炊用(13人分)として予備含め15合持っていったが、全部消費してほぼちょうどよかった。(伊藤千)

<気象> 事前の天気予報では、まずまずの予報でした(大矢さんの情報でも)。2日めは曇り時々雨で予測範囲。2日の夕方から雨が降り続き、3日めの朝になってもやみそうになかったため、剣小屋に情報を仕入れに行きました。「台風9号の影響で今日・明日とも雨の予報」とのこと。「剣岳に登りたい」と確認すると、「楽しくないでしょ」。「テントが雨漏りしているが、宿泊可能か」には「キャンセルがあれば出来るが、現在情報無し」。リーダーに報告し「撤退!」の号令で、雨中テントを撤収し1日早く下山する事になりました。久しぶりの気象通報は聞き取りづらく、練習不足のため天気図にすることが出来なく、みなさんにご迷惑をお掛けしました。(天野)

<装備> 今回の装備で新規のダンロップ製8人用テントを使用したが、テントを張るのは今までのエスパーズ製より手間がかかるがテント内は十分保温性があり寒さは防げると思った。しかし、ポールを1つの袋に入れると約3kgあり重いのでポール入れを3袋に分けて持参した。今後のテント泊に山岳部部員が利用してもらえれば良いと思いました。(藤田英)

【感想】

- ・ 夏合宿の思い出を3句でまとめてみます。(芦田)
梅雨明けてトマト頬張る山男
仲間らの足を跳ねさす雪解水^{ゆきげみず}
いさぎよき我が背に霞む劔岳
- ・ 天候恵まれず、念願の劔本峰登頂もお預けとなり、また星空眺めることなく幕を閉じた今合宿にはいささか物足りなさは仕方なし。しかしながら、オールドヨタの面々や合宿初参加の方々との交流は多くの元気をいただき、更には雄山頂上でのおはらいで多くの感激・希望を頂いた。デンソー山岳部の裾野を広げるべく、是非とも次回合宿に期待！（吉川）
- ・ かつては岩登りや雪渓のグリセードを楽しんだ劔岳、久しぶりの訪問に心躍るものがあった。今回は残念ながら天候不順で頂を踏むことはできなかったが、ガスの切れ間からの遠望だけで十分に満足している自分がそこにいた。劔岳は登っても眺めても飽きることはなさそうだ。19人すし詰め状態のテント内での語らいは多人数の合宿ならではの楽しい一時だったことも付け加えておきたい。合宿参加者の皆さんに感謝します。(渡辺勝)
- ・ あいにくの空模様で、立山だけの山行となってしまったが、出だしから、ハテナ？と思う渡渉もあり、13人の大パーティで、にぎやかに愉快的な山を楽しめました。山の雨は、こんなもの……しかし、あの雨じゃ～、判断も正解です。降りる私達に、劔が一言。『もっといい日に、又おいで……』と。(津田)
- ・ 今年の夏合宿は新人、中堅部員の参加が多く総勢19名で盛大に実行できた。全豊田山岳連盟創立40周年のイベントもあり、記憶に残る山行ができた。劔岳隊は台風の影響でメインの劔岳登頂は断念したが、新人が標高3000mの立山縦走を実行できたことは、いい経験となった。今回の合宿目的の新人・中堅の育成は着実に成果をあげることが出来た。今後の更なる活躍を期待したい。(金子)
- ・ 短い合宿ながらも色いろなことがありました。V8あわや火災！出火原因をキッチリ押さえて下さい。としよう？ってどんな字を書くの？「渡渉」です。裸足派 or 靴派？色いろな花をおぼえましたね。「チングルマ・ハクサンイチゲ・イワカガミ e t c」。劔岳は動きません。夏の思い出に終わらず、又行きましょう。(町田)
- ・ 劔岳に登れなく残念！天候の良いときに再チャレンジしたい！最初の合宿で雨、良い経験となりました。(天野)
- ・ 今年の夏合宿は「点の記」という映画になった陰しい「劔岳」になっていたの期待と不安（カニのたてばいやよこばいを行けるだろうか？）があった。しかし、「劔岳」アタックの当日が雨天による悪天候で中止になってしまった。またの機会があったら挑戦したいと思いました。(藤田英)
- ・ 合宿初参加で不安もありましたが、徐々に心から楽しいと感ずることが出来ました。荷物を代わり持ってもらったり、的確なアドバイスや手を差し伸べてくださったりと、本当にありがとうございました。山そして山の仲間はすばらしいです。天候不良で劔岳に登れなかったのはとても残念

念でしたが、またの機会に是非チャレンジしたいと思います。（飯谷）

- ・ 合宿参加者19名という事で、新規購入したコンロだったが不良があった。危うくテント内で発火の危機がありましたが、金子C.L.のとっさの判断で火元を放り出し大事には至りませんでした。私には2年振りの夏合宿、全豊田行事参加も3年振りでしたが、時間を感じさせない皆さんの親しみ深さに安心して楽しく参加できました。（鐸木）
- ・ 剣岳に行けず、悪天候や日程短縮など消化不良感は否めない。しかし今回はテント到着後にゆったりでき、行動中や車中も話もできて楽しい合宿だった。トヨタ岳連の皆さんの夕食（カニ鍋、ペミカン利用のすき焼き）を見られたのは参考になった。フライの張り方が甘くて夜間の風雨でフライがはためていて雨漏りし、テント設営の重要性を実感した。目前の火事未遂も強烈な印象に残った。（伊藤千）
- ・ 初合宿参加だったが、360°美しい山々に囲まれてトヨタグループの仲間で輪になり飲んだアサヒスーパードライは最高だった。テント内ではシュラフにぴったり収まり、そこから寝返りもせず熟睡したことから「ツタンカーメン」と命名された。体力も荷物も資源もギリギリラインで生活する3日間の貴重な経験はプライスレス！このお金で買えない価値を取るか、今回の悪天候テント生活の苦い経験が記憶に残ってそちらが勝つか…来年、私が合宿参加するかどうかの行方は自分でも楽しみにしておきたい。（川中）
- ・ 白山での反省を生かし、極力荷物を減らして臨んだ初合宿だったが、体力不足・睡眠不足でどうしても登るペースが遅くなってしまった。しかし最終日に芦田さんにもらったアミノバイタルのおかげか、筋肉痛はほとんど起きなかった。次回は必携である。（小久保聡）

【会計】

09年夏山合宿(剣岳隊13名)会計報告

収入の部	(円)	支出の部	(円)
会費(10,500×13名)	136,500	食料代	17,130
山田夫妻からの寄付金	3,500	公共交通費	54,470
山田夫妻2次会会費繰越金	4,000	バス荷物代(300/人×往復)	7,800
		テント場代(雷鳥沢・剣沢)	13,000
		温泉代	6,700
		高速代(往路3台)	3,000
		ガソリン代・車維持費(3台)	41,900
合計	144,000	合計	144,000

デンソー山岳部

2009夏山合宿報告書【薬師岳隊】

期間

2009年8月8日～12日

メンバー

CL: 江頭 孝治

SL: 吉田 明和

亀山 誠

村越 好晴

杉本 孝

岸上 薫

ルート

- 1日目 入山 - 雷鳥沢
- 2日目 雷鳥沢 - 剣沢 - 劔岳 - 劔沢(8:05)
- 3日目 劔沢 - 立山(雄山) - 五色ヶ原(8:20)
- 4日目 五色ヶ原 - 薬師岳 - 薬師峠(10:30)
- 5日目 薬師峠 - 折立(3:30)



8月8日(土) 曇り

04:15 刈谷 N1 駐車場発
09:00 立山駅着
10:10 立山駅発
10:25 美女平発
11:15 室堂着
11:50 雷鳥沢テン場着
13:30 全豊田 40 周年記念開会式

朝3時起床したため、大変眠い。みんな、きちんと来ているのか心配になったが、全員ほぼ集合時間通りに来ており、一安心。薬師隊は、当初、車2台の予定だったが、経済面を考え、亀山さんの VOXY 1 台で行くことに変更した。立山駅では、混雑はしていたものの、懸念したほどではなく、若干の待ち時間でケーブルカーに乗ることが出来た。室堂のターミナルに到着した時は、あまりの立派さに驚かされた。いろいろなものが売っているし、トイレも綺麗、まるで軽井沢に来たような感じを受けた。室堂から雷鳥沢までは、石段の整備された道を地獄谷経由でゆっくり歩き、12 時頃に到着。各社もほぼ余裕を持って到着していたため、当初 15 時開会式の予定が 13 時半に変更になり、3 時間程度、全豊田のメンバーで親睦を深めた。翌日朝早くのパーティーもあるため、16 時頃から各社で夕食の支度を始めて、薬師隊としては 19 時に就寝した。

(岸上 記)



8月9日(日) 雨/曇り

03:00 起床
04:00 雷鳥沢テン場発
05:00 一本
05:35 劔御前小屋通過
06:05 劔沢テン場(設営)
06:45 テン場発
07:05 劔山荘 一本
08:15 前劔山頂 一本
09:25 カニの縦這い(渋滞)
10:30 劔岳山頂
11:00 下山開始
11:10 カニの横這い(渋滞)
12:30 一本
13:30 一本
13:50 劔山荘
14:20 劔沢テン場着

私にとって夏山初の合宿であり、今日は劔岳への山行である。以前からネットで調べてみたが、カニの縦這いの横這いの、梯子を降りるだの色々書いてあり、写真を見ると、結構絶壁を攀じ登っているではないか。こんな所を登るのか！という不安に駆られた。しかしその日がとうとう来てしまった。4 時に雷鳥沢テン場を出発し、劔沢のテン場に到着、テント設営が終わったころ、江頭 C L から、「体調がすぐれないので断念する。」との一声。薬師岳隊全員で登頂したいという一体感があっただけに残念であった。無理をしない勇気も必要なんだなあと C L から学んだ。その分いい土産話を聞かせてあげようと思った。劔山荘まで C L も同行し、ここで見送られて 5 人でアタックする事に。一服劔から鎖場があり、カニの何とかやらを御丁寧に予行練習を兼ねてくれているみたいだった。ここで私は一服劔を越えた所から、次の尖がった山を劔岳と勘違いしてしまったのだ。もうすぐだな、それにしても岩だらけで絶壁だなと思ったのも束の間、隣からあれは前劔だよと言われ愕然。そう容易く全貌を見せてくれなかった、恐るべし劔岳。前劔も変化に富み、高所恐怖症の私にとっては難関だったが何とか登りきり、次に最大の難関、カニの縦這いへ。しかし 20m 位繋がった人の渋滞待ち。鎖を握り、ボルトに足を掛けて登っていく人を見ていると、自分にも出来るのだろうか。という不安が横切った。前の人の行動を良く見て、同じように足を架けていく。途中から下を覗くと怖かった。振り向かずに行こうと自分に言い聞かせた。カニの縦這いが終わると 10 分足らずで頂上に着いた。やったー。雲の切れ隠れで、景色は然程良くなかったが登頂した喜びがあった。しかし油断してはいけない。まだ下りにカニの横這いがあるのだ。ここも 1 時間程待ちの渋滞があった。いざ自分の番になると最初の一步が分からない。亀山先輩が「左足を岩に入れるん

だ。」の声に何とかクリア。最初の一步が出れば後は簡単だった。何とか難関を乗り越え下山し、剣山荘手前まで下りてくると安堵感が募った。山を楽しむと言うより、緊張と恐怖感を味わい、今までに無い変化に富んだ山行であり、面白かった事も事実であった。
(杉本 記)



8月10日(月) 雨

03:00 起床
05:05 剣沢テン場発
05:50 一本
06:15 別山山頂
06:45 真砂岳山頂
06:55 一本
07:35 大汝山
07:55 雄山山頂 一本
08:50 一ノ越
09:40 一本
10:35 獅ヶ岳山頂
10:43 一本
12:05 五色ヶ原山荘 一本
12:30 五色ヶ原テン場着

剣沢で剣隊に挨拶し出発する。別山を目指し登り始めるが、雨が降り、風が強く吹き付ける。そのため体温が奪われじっとできないので、長く休憩することもできない。1時間すると、別山山頂に到着した。山頂に着いたので試しに叫んでみた「ヤッホー!」。しかし、こだまは返ってこなかった…。しょんぼりしながらも再び出発、どんどん進んでいくと次なる山が見えてきた、大汝山だ。高くそびえ立つこの山を見て、僕は心が折れそうになった「この急な坂を登るのかぁ...」。風雨にさらされながらも一歩一歩進み、大汝山山頂に到着した。山頂で記念写真を撮り、すぐに出発した。しばらく歩いていると目の前で、雷鳥がおしりを振りながら登っていくのを発見し、思わず「雷鳥だ!」と叫んだ。それを聞いた後ろの亀山さんは、「今晚は焼

き鳥か〜。」とつぶやいた。雷鳥を捕まえようかと一瞬思いたったが、疲れてその気力もなく、捕まえるのはやめることにした。しばらく進むと雄山山頂に到着し、雄山休憩所で冷えて疲れた体を休めることにした。休憩所内では風雨にさらされることがなく、壁の偉大さを体感した。気力と体力が幾分回復したので、一ノ越に向けて出発する。山道をどんどん下っていると、右後方からすごいスピードで我々を抜き去る人がいた。誰だ?と思ったら江頭CLであった。我々の前へ出て写真を撮パシリッ! どうやら江頭CLは体調が回復し元気になったようで、安心した。一ノ越を過ぎると岩場が増えるがどんどん進み、獅ヶ岳の直前で休憩をとった。休憩中、杉本さんが私のところへやってきて、「もっとポレポレ(ゆっくり)の速度で歩いてくれないか」と言いながら、バナナチップを1枚袖からスッ~と出してきた。それを食べたくて、僕は要求に応じることにした。12時過ぎ、五色ヶ原の幕営地に到着する頃には雨はやみ、一同濡れた装備を乾かした。曇り空にも関わらず、あっという間に乾いた。夕食までの間、みんなで劔岳の思い出などいろいろ話した。後立山連峰を見ながら夕食をとっていると日が射ってきて、素晴らしい1日の終わりとなった。
(吉田 記)

8月11日(火) 晴れ

03:00 起床
04:15 五色ヶ原 キャンプ場発
05:05 鳶山 一本
06:00 越中沢岳中腹 一本
07:25 越中沢岳とスゴの頭の鞍部 一本
08:55 スゴ乗越小屋 一本
10:15 間山 一本
11:25 北薬師岳中腹 一本
12:55 薬師岳 一本
13:45 薬師岳山荘 一本
14:40 薬師峠テン場着

朝霧立ち込める中出発。直ぐに空が白み始める。登山道脇に花畑が広がり、我々の山行を励ます様だ。昨日までの天候とはうって変わって晴れの良い天気だ。暫くは木道の登りが続く。木道脇に雷鳥の親子の姿が、我々から逃げる様子もなく、悠然と石の上に立っている。鳶山付近で、地震があり、山の上にも関わらず揺れを感じる。大きな地震だ。登山道は雲海の中へ下って行く。暑くならずすむ。涼しく快適だ。アップダウンを繰り返し歩く。越中沢岳からは行く手に北薬師岳、振り返れば雄山、奥に前劔が良く見え、遠い道のりを歩いて来たのが良く分かる。色々な花や大きな水芭蕉が見れた。間山へは所々あざみが咲いていて、小屋の人が天ぷらにする為、目印をしていた。間山から

は雲の中から、槍の穂先が見えた。北薬師岳手前から狭い稜線になる。花畑と雪渓。ピーク辺りはガレ場で歩き難い。薬師岳の北側では大きな石、南側では小さな石になっていて不思議な感じがした。沢を下って薬師峠に到着。沢山のテントが張ってある。10時間25分の長い長い行動を終える。
(村越 記)

8月12日(水) 晴れ

04:30 起床
06:20 薬師峠出発
06:40 太郎平小屋
07:10 一本
08:05 一本
09:15 折立着
09:30 折立発
10:20 立山駅着
16:00 刈谷着

この日の行程は、3時間と短く夏合宿のラストと感慨深かったこともあり、何故か起床予定時間の3時間も前に目が覚めた。仕方なくテントを出て、これ幸いと天体観察を始める、半分頭が寝ていた中、月の明るさとオリオン座が印象深かった。タクシーの予約を10時にしており時間に余裕もあることから、杉本さんの提案もあり最後の朝食を外の空気を満喫しながら楽しんだ。折立までの道は、よく整備されており、疲れも感じず、一気に下山した。天気良かったためか、たくさんの登山者とすれ違ったことが印象に残った。折立では、既にタクシーが到着しており、段取りよく立山駅まで戻ることが出来、下山後の楽しみである温泉に入り、無事、刈谷に到着した。メンバー全員に怪我がなく、計画通りに行程を終えることが出来たことが何より良かった。日帰りでは味わえない、メンバーとの語らいが良い思い出になった。
(岸上 記)

【会計報告】

収入		支出	
会費(11,800円*6名)	70,800	共同食料費	10,500
山田夫妻寄付金	1,500	交通費(立山~室堂、ケーブル、バス)	14,160
山田夫妻お祝い会余剰金	2,300	バス手回り品	1,800
		テント代(6人*4泊*500円)	12,000
		交通費(折立~立山 ズッコク)	18,200
		車代(600円*5円)	3,000
		高速代 行(1,000円)帰(5,700円)	6,700
		ガソリン代	8,240
	¥74,600		¥74,600

山田夫妻、不破さん、佐溝さん
差し入れありがとうございました。

<所見>

リーダーはじめ、皆さんお疲れ様でした。お陰さまで随所に感動を覚えながら、思い出に残る良い夏山合宿となりました。特に、“五色ヶ原の絶景”と“雄大な薬師岳”！内容については、計画がパーティーレベルに合っており、その中で行動全般に於いてスピーディーな動きが取れており好感がもてました。同時に、各自のレベルアップが図れて行ったと思います。欲を言えば、体力的にあまり余裕が無かったかな？増強に努めて欲しい。また、行動中の読図不足や経験不足からくるであろう、ルートミスが見受けられます。この点についても改善をお願いしたい。最後に、皆さんの常に明るく楽しい雰囲気づくりに乾杯！！
(亀山 記)

<リーダー所見>

酷暑、震える下界で留守番、また差し入れなど頂き、合宿をサポート頂いた関係諸氏の皆様にご場をお借りし厚くお礼申し上げます。薬師岳隊のすばらしいメンバに恵まれて、隊として無事合宿を終えることができたこと、感謝申し上げます。体調不良のため、2日目の剣岳アタックをリーダー自らが辞退した点、4日目の薬師峠幕営地でもリーダー自らが木陰で倒れている(熱中症?)始末。メンバーにご心配、多大な迷惑をお掛けし猛省しなければならない。長時間の歩行、雷よけ、特に急激な気象変化に対応すべく、縦走中は携帯ラジオを聞き続けた。地方天気予報の内容変化に気づくことができ、3日目の一の越(縦走続行か、エスケープを検討するかの分岐と想定した)において、続行と判断した。メンバーへの説明が十分ではなかったと思うが、以降の天候回復が見込め、幸い結果的に五色ヶ原の夜は平穏そのものであった。その後新米リーダーの強行軍にお付き合い頂いたメンバのタフネスに驚く。そして自らがバテと言う構図、山は人生そのもの成。
(江頭 記)